

令和8年度きらめき講演会を開催します

今年度講演会は九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FDと
合同で開催します。

講師として、九州大学副理事で、九州大学大学院医学研究院
長寿幹細胞医学分野 教授の三浦 恭子 先生をお招きします。

講演テーマ：

「健康長寿哺乳類ハダカデバネズミの研究とこれまでの歩み」

日時：令和8年10月19日(月)

18:00～19:00

会場：病院キャンパス

アイン薬局九大南店

2階大会議室

対象：九州大学

教職員・医療従事者・
学生

皆様のお越しを
お待ちしております



九州大学 教職員・医療従事者・学生 対象

令和8年度
九州大学馬出地区4部局合同男女共同参画FD・
九州大学病院きらめきプロジェクト講演会

10月19日(月)
18:00～19:00
九州大学病院キャンパス内
アイン薬局九大南店 2階大会議室

●講演
九州大学 副理事・医学研究院 長寿幹細胞
医学分野 教授 三浦 恭子 先生
「健康長寿哺乳類ハダカデバネズミの研究と
これまでの歩み」

◆当日現地でもお申込みいただけますが、スムーズにご入場
いただくために、ぜひ事前に専用申込フォームからお申込み
をお願いいたします。

◆託児を無料で利用できます。必ず専用申込フォームから
お申込みをお願いいたします。(申込締切 10月1日(木))

【共催】一般社団法人九州大学医師会
【企画・司会先】
九州大学大学院医学研究院 (事務担当 医系学部等事務総務課職員厚生係)
TEL: 092-642-6243 E-mail: jiskousei@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学病院臨床教育研修センターきらめきプロジェクト
TEL: 092-642-5203 E-mail: kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学病院 臨床教育研修センター

きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX: 092-642-5203

E-mail: kirameki@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL: https://www.kiramekipj.kyushu-u.ac.jp/

2026年10月(隔月発行)

きらめきプロジェクトでは マタニティ白衣のレンタルを行っています

九州大学病院きらめきプロジェクトでは、2014年4月より
主に病院地区の教職員・学生を対象に、大学病院でプロデュース
されたマタニティ白衣を無料でレンタルしています。

マタニティ白衣は、ダブル仕立てのコート
タイプで、お腹の膨らみが目立ちにくく
なっています。また、腹囲の変化にあわせて
ウエストを調整できますので、妊娠初期
から臨月まで対応可能です。

サイズは、SサイズとMサイズを用意し
ています。サイズ選びがご不安な方は、実
際に着用してサイズを確認いただくことが
できますので、レンタルお申込み時にお知
らせください。



【レンタルお申込み～返却までの流れ】

- ①貸し出し状況確認：まずは下記までお電話ください。
きらめきプロジェクト 092-642-5203
- ②メールで申込書をご提出。
- ③きらめきプロジェクト事務局で直接お渡し。
- ④レンタル期間終了後1週間以内に、各自でクリーニング後、
事務局へ直接返却、または郵送(送料は自己負担)でご返却
ください。

きらめきプロジェクトHP(右上QRコードから)

> ライフサポート > マタニティ白衣

※枚数には限りがあり、ご希望に沿えない場合も
ございます。あらかじめご了承ください。





日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクターを紹介します



卒後12年目の呼吸器内科医師です。夫と子ども（3歳）の三大家族です。卒後7年目から大学院に所属し、出産・育児のため1年間の休学を挟みながら研究に取り組んでまいりました。大学院4年目で論文完成に至らず、育児をしながらフルタイム勤務と研究を両立することは難しいと考え、きらめきプロジェクトに応募しました。

現在は週2回外来化学療法室での業務に従事し、週1回外勤をしています。就業後や勤務のない日には研究に取り組み、論文完成と学位取得を目指しています。子どもが3歳になったとはいえ、急な発熱による呼び出しなど、まだまだ突発的な対応が必要となることもあります。また、成長してきたからこそその心のケアや家族との関わりも大切だと感じています。仕事や研究を継続しながら家族との時間も確保できる現在の働き方は、非常に恵まれていると日々実感しています。このような環境を与えてくださったきらめきプロジェクトの皆さま、柔軟な働き方にご理解をいただいた呼吸器内科医局の先生方には深く感謝申し上げます。

非常勤であっても臨床現場から離れることなく医療に携わることで、日々の診療を通じて知識や技術を維持することができています。今後も子どもの成長や家庭の状況に合わせながら、その時々ができる形で医師としての経験を積み重ねていきたいと考えています。将来的にはフルタイムで臨床に復帰し、これまで培ってきた経験を生かしていきたいと思います。



私は卒後15年目の心療内科医として、主に摂食障害を中心とした診療に従事しています。昨年9月までは1年弱、大学でフルタイム勤務を行い、外来・入院診療の双方に携わっていました。しかし、育児をしながらフルタイム勤務を続ける中で、徐々に家庭との両立が難しくなり、働き方を見直す必要を感じるようになりました。

そこで、昨年10月からきらめきプロジェクトに参加し、現在は勤務時間を調整しながら、外来診療やカンファレンスを中心に勤務しています。

きらめきプロジェクトに参加したことで、育児に必要な時間を確保しながら、診療・研究を継続できるようになりました。現在は入院主治医として病棟業務を直接担うことは難しいため、入院となった患者さんについては研究室の先生方に主治医をお願いし、カンファレンスを通して治療方針を共有することで、継続して治療に関わっています。勤務時間が限られる中でも、このような連携によって専門性を維持しながら臨床を続けることができています。

研究面では、今年度アクセプトされた論文をもとに、2026年中の学位取得を目指しています。また、以前から取り組んでいる摂食障害の入院治療の治療効果に関する研究も継続しています。今後も周囲のサポートに感謝しながら、臨床と研究を継続し、心療内科医としての専門性を深めていきたいと考えています。

